

自己評価報告書(最終報告)

報告者

自然系コース(理科)
／佐藤 勝幸

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ－1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

教科専門としては、教育実践力を備えた学生の育成のために、学習指導要領で示されている内容の理解はもとより、そのバックボーンとなる科学的な知識や技術の習得を目指すとともに、事物を科学的に思考できる能力を養う。教科教育としては、教科教育学そのものを講義するばかりでなく、学校現場を意識し、授業実践に関わる知識、技術力、発想力、応用力を身につける場面の設定を意識し、教育実践力の向上をはかる。教職に関する教科としてのコア科目では、小・中学校教科書の内容、その発展的内容を扱い、指導案作成、実践、相互評価などを通して教員として必要な資質・能力の育成に努める。

2. 点検・評価

○教科専門では、科学的知識、データの処理と分析、科学的な思考を養うような講義や演習を展開し、具体的な事例から学べるよう工夫した。
○教科教育では、学習指導要領を解説し、さらに今日求められている教育実践力育成のために具体的な例示を基に思考する時間を確保し、指導を行った。
○コア科目では、実際に学習指導案を作成した。その構想段階および最終的発表段階の2回、学生による相互評価を行い、互いに競争、協力できる教育実践力育成のための活動の場を十分確保し、授業を展開した。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

○前年に引き続き、教育実践力を養うため、模擬授業を取り入れた授業を行う。
○特に、理科教育の特徴、小・中・高校での単元構成や今求められる教材についてわかりやすく指導する。
○基礎的な知識や実験・観察の技能が身に付くような指導を試みる。

2. 点検・評価

- 前年に引き続き、教育実践力を養うため、模擬授業を取り入れた授業を行った。特に実験・観察を取り入れた授業実践を行っているため、理科コース以外の学生に対しては実験方法や手順の確認にもなっている。授業後のアンケートでは、準備の大変さや授業の難しさを指摘するものの、授業に対する自信が得られたという評価を得ている。
- 理科教育の特徴、小・中・高校での単元構成や求められる教材については、特にわかりやすく指導を行った。
- 生物学実験、初等理科教育論などで繰り返し基礎的な知識や実験・観察の技能が身に付くような指導を試みた。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

- 理科教育の授業改善に関する研究テーマで研究を進め、学会等で発表・論文にまとめる。
- 葉などに付着する微小生物の同定と、それらの生態系での動向に関する研究を進めるとともに、その教材化も試みる。
- 学内外の研究助成金の公募に申請し、外部資金の調達に努める。

2. 点検・評価

- 本年度は教員養成のためのモデルカリキュラムとその適格判定基準というテーマで第59回中国・四国地区大学教育研究会(鳴門教育大、5月)や平成23年度日本教育大学協会研究集会(香川、10月)で発表を行った。
- 葉に付着する微小生物の研究を進めると同時に、空气中を浮遊・移動する微小生物の捕獲方法を検討・試行している。これにより、これまで報告されていない微小生物の空气中の移動の様子を明らかにできる可能性がある。
- 平成24年度特別経費(プロジェクト分)概算の獲得に努めた。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

- 学部教務委員、センター運営委員として本学の運営に貢献する。
- キャリアオフィス長として長期履修学生の資質向上に努める。
- 学部1年次クラス担当教員として学生の教育的支援に努める。

2. 点検・評価

- 学部教務委員、センター運営委員として本学の運営に貢献した。
- キャリアオフィス長として長期履修学生の資質向上に努めるとともに主免実習校の開発にも努力した。
- 学部1年次クラス担当教員として学生の教育的支援に努めた。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- 附属学校教員と連携し, 理科教育分野に関わる共同研究を試みる。
- 大学と地域・社会との交流・連携を積極的に行い, 社会貢献に努める。
- 本年度も, JICA等の国際協力事業に協力する。

2. 点検・評価

- 附属学校教員と連携し, 理科教育分野に関わる意見交換を行った。また, 研究授業にも助言や協力を行った。これらは今後の共同研究つながるものであると確信できる。
- 阿南市科学センターにおいて阿南市中学校理科部会で指導(H23.8)、半田中学校において第41回徳島県中学校理科教育研究大会にて助言指導(H23.10)、鳴門高等学校において大学・専門学校模擬授業体験での講師(H24.3)などを行った。
- 帰国外国人留学生短期研究制度での平成24年度分の申請書類作成のため、Eメールで本人と連絡を取りながら完成させた、申請を行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

平成24年度特別経費(プロジェクト分)概算の計画・立案に努めた。